

とびうめ



目 CONTENTS 次

本会の取組紹介	2
役員紹介・組織図	3
各地区活動紹介	4
研修報告	5
親善球技大会	6
障害者週間啓発ポスター作成	7
感染症に関するアンケート結果	8~9
事業所取組紹介	10~11
新規会員加入施設紹介	12

No. **1**

【事業所取組紹介】

多機能型施設あごら、宗像学園/宗像ホーム/
パン工房ハイジ、宗像多機能型事業所/キッチン
工房ハイジ、セルフ清浄「菓子工房さくら」、
山門清光園

本会の取組紹介

新型コロナウイルス感染症が発症してから3年が経過し、緊張や不安が長期間継続する中、本会ではできることをできる時に可能な方法で事業運営のサポートを行っています。

総会、部会・委員会 全体会の開催

本会では全会員施設の施設長の皆様を対象とし、事業計画・収支予算や事業報告・収支決算等を御審議していただく「総会」を年2回、各部会・委員会の委員の皆様を対象とし活動報告及び今後の活動計画について情報共有を行う「全体会」を年1回開催しております。

新型コロナウイルス感染症に関するアンケート調査

本会では、新型コロナウイルス感染症の経験や、感染対策等について課題と感じたことなど、会員施設にアンケート調査を行いました。アンケートでは、施設内に感染者が出た時の状況と感染対策を行う中で課題と感じたこと、今後、改善していきたいことについて伺い、とりまとめた結果を会員施設へフィードバックするとともに、本会ホームページ (<https://fukuoka-chiteki.jp/>) や広報誌 (P.8～9) に掲載しています。

就労支援に関するアンケート調査

本会では、会員施設の就労支援に関する状況についてアンケート調査を行いました。アンケートでは、各施設で請け負うことができる仕事や就労支援に関しての悩み・課題、農福連携等について質問しました。調査結果を分析・検討し、関係機関と企業等との連携や各地区での販売会等、障がいのある方が働くことを通じ、生き生きと心豊かな生活を送るために、本会でできる就労支援に活かしていきます。

福岡県との意見交換会

毎年、福岡県社会福祉法人経営者協議会（以下、経営協）が主催される、各種別協議会と県担当部局との意見交換会へ木高会長及び洲上副会長、田島副会長の3名が出席されました。はじめに、経営協からの意見に対する回答があり、その後、各種別に分かれ意見交換が行われました。本会からは、事前に会員施設に聞き取った、施設で抱えている制度上の課題や県に協力を求めたいことを意見として提出し、それに対する回答をいただいた後、意見交換を行いました。その後、意見交換会の内容を会員施設と情報共有しました。

ウクライナ支援 救援金・就労支援

激化する戦闘により、多数の死傷者や避難民が発生し深刻な被害が発生しているウクライナへの支援として、本会では救援金の募集を行いました。会員施設の皆様から1,477,305円の救援金をお預かりし、福岡県ウクライナ支援救援金として福岡県へ寄附いたしました。

また、多くの避難民が来日しており安心して日本で生活できるよう、国や地方自治体、各団体など人道支援に取り組まれております。そこで本会では、ウクライナ避難民の「働く」ことと、福祉のしごとの「人材確保」を結び付ける、ウクライナ避難民への就労支援に取り組むことといたしました。本取組により、各施設及び事業所では、日々、専門性の高い支援を行っているため、ウクライナ避難民の就労支援を行ううえで専門職の強みを活かすことができ、さらに、地域において各施設及び関係機関と連携しながら課題解決に取り組まれていることから、日頃からのネットワークを活用しながら地域の中で支援することを目的としております。まだ、具体的な動きはございませんが、ハローワーク等と連携しながら取り組んでまいります。



令和4年6月10日（金）
福岡県福祉労働部障がい福祉課
町田課長補佐から御礼状受け取り

台風14号に係る災害見舞金の贈呈

令和4年9月に大型で非常に強い勢力で九州を横断した台風14号により被害報告があった会員施設（5施設）に対し、災害見舞金を贈呈しました。



この他、「各地区活動 (P.4)」「研修事業 (P.5)」「親善球技大会 (P.6)」「障害者週間啓発用ポスターデザイン募集 (P.7)」にも取り組んでいます。

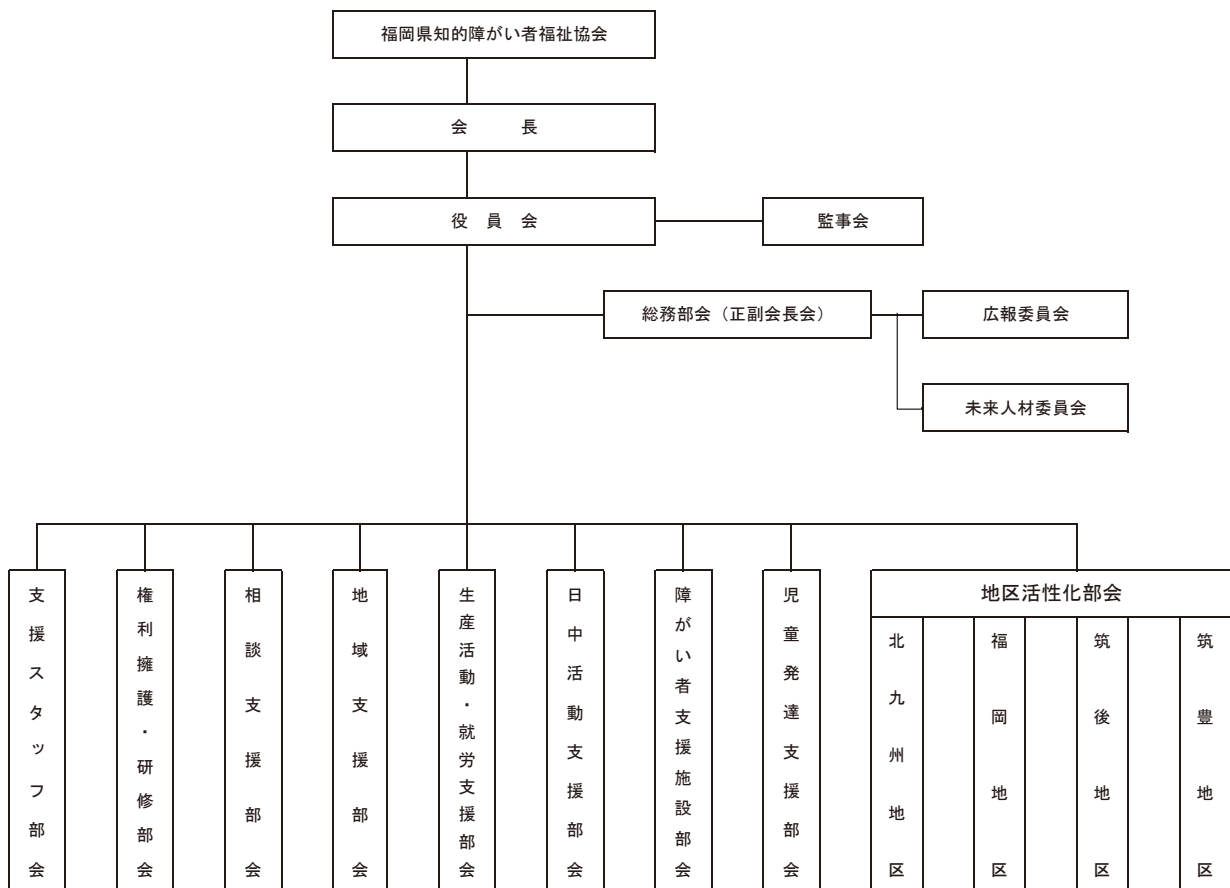
福岡県知的障がい者福祉協会 役員一覧

(任期：自 令和4年4月1日～至 令和6年3月31日)

会 長	木高 徳典	月の輪学園
副会長	副島 克也	ひよりの丘
副会長	石井 邦佳	ほっとスペースあさくら
副会長	田島 茂敬	赤坂園
副会長	淵上 忠彦	笠置寮
理 事	中村 隆	若久緑園
理 事	鈴木 丈二	周防学園

理 事	栴田 充生	早良厚生園
理 事	木戸 靖二	あきさと園
理 事	福田 敬介	昭和学園
理 事	三苦 卓巳	なのみ工芸
理 事	淵上 祐行	笠置寮
監 事	橋本 義和	北野学園
監 事	石田 浩司	川崎学舎

福岡県知的障がい者福祉協会 各部会・委員会組織図



令和4年度 地区活性化部会 活動報告

各地区活動紹介

北九州 地区 北九州地区代表 ひよりの丘 副島 克也

令和5年1月27日（金）に、令和4年度第1回施設長会・研修会をレインボープラザ（北九州市八幡東区）にて、会場及びオンライン併用のハイブリッド形式で実施しました。施設長会は、本年度の役員会報告を行い、木高会長から「障がい者福祉の現状」等情報を提供いただきました。

また、研修会は「対人援助職のアンガーマネジメント」と題し、北九州市社会福祉研修所 研修・企画指導監 新川泰則氏に講演いただきました。

今後も障害福祉の情報共有や研修の場を提供していきたいと思っております。

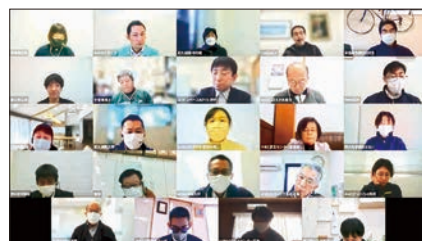


福岡 地区 福岡地区代表 ほっとスペースあさくら 石井 邦佳

福岡地区では令和5年1月30日（月）に今年度1回目の施設長会及び研修会を開催いたしました。オンラインでの開催となりましたが37名のご参加をいただき、木高会長から今年度の役員会報告並びに当協会の動きについてお話いただきました。また、研修会では㈱ライズ 代表取締役 高尾英正様を講師に迎え「部下とのコミュニケーションのあり方について」の演題の元、グループ討議を含む90分間の研修を実施しました。

また、2月8日（水）には職員運営委員会も開催し令和5年度事業について協議をしました。

長引くコロナ禍で、思ったように事業実施ができない3年間が経過しましたが、類型の見直し状況を見据えながら、次年度はより多くの協会活動及び地区活動ができますよう、計画・協議を進めて参ります。



筑後 地区 筑後地区代表 赤坂園 施設長 田島 茂敬

筑後地区では、各種別部会委員の方々で構成している運営委員会により、職員研修会及び施設長研修会、施設見学等の年間事業計画を立てて活動しています。

今年度の活動としては、先ず7月に職員研修会を開催しました。その内容は、新型コロナウイルス感染によるクラスター発生施設より入所・通所・GHの各種別から事例を発表し、会員施設への感染対策と予防について情報提供を行いました。

また11月には施設長研修会を開催し、企業に対して地方の農園を活用した障がい者雇用支援サービスを行い、採用から雇用と定着までを支援し、その企業に貸農園ビジネスを行っている業種についての研修会を行いました。

今後も地区での活動を通じて、施設間の情報交換を行い、日頃から会員施設同士のつながりを大事にしていきたいと思っております。



筑豊 地区 筑豊地区代表 笠置寮 施設長 淵上 忠彦

筑豊地区においては、令和元年より2か月に1回の頻度で会議を開催していましたが、新型コロナウイルス感染症の流行に伴い令和2年度は開催できず、令和3年度は1回、令和4年度においてもまだ1回しか出来ていないのが現状です。

今年度、11月に社会福祉法人穂波学園 笠置寮にて開催した施設長会では木高会長より障がい福祉の現状等についての報告及び近年義務付けられている各種制度の確認、情報提供を行い、各施設の近況報告（コロナ感染症等含む）があり、その後、新築した障がい者支援施設 笠置寮の施設見学をしていただきました。

今後も会員の皆様の声を大切にして、研鑽を積んでいきたいと思っております。



REPORT

令和4年度 第1回施設長研修

(Web開催)

令和4年 6月30日(木)

福岡県福祉労働部障がい福祉課 障がい福祉サービス指導室 室長補佐 野口綾子氏に、「障がい者虐待防止及び実地指導について」と題し、障がい者虐待防止等に関する福岡県の方針並びに実地指導方針について説明頂きました。

令和4年度 新任職員研修会

(Web開催)

令和4年 7月12日(火)・7月14日(木)

入職3年未満の職員を中心に、A日程・B日程で合計67名の参加を頂き開催しました。

A日程は新卒職員を対象に「社会人としてのマナー」、「権利擁護について」の講義を行いました。「社会人としてのマナー」は(株)NCBリサーチ&コンサルティング吉田美穂氏を講師に招き、基本的なビジネスマナーとコミュニケーションのマナーについて講義頂きました。

B日程は既卒職員を対象に、福祉現場における基礎知識について「①障がい特性の理解」、「②福祉施設で使われる薬と取扱いについて」、「権利擁護につ

いて」の3つのテーマで講義を行いました。基礎知識①では、会員施設におけるヒヤリハット事例等を基に、本会支援スタッフ部会 部会長 村上祐行氏の講義から現場対応の実際を学びました。また、基礎知識②では、社会福祉法人絆の会。ひなた家薬剤課長 辻 良介氏より、てんかん発作の基礎知識や支援現場でよく使われる薬等の基本情報と万が一の服薬ミス時の対応等について講義頂きました。

A・B日程共通の「権利擁護について」は、虐待防止の視点も含めた権利擁護については、基本的な考え方を共有する時間としました。

令和4年度 権利擁護に関する

実践力向上研修(Web・ハイブリッド開催)

令和4年 8月24日(水)～(全4回)

本会では、平成30年度から標記研修会を開催しています。初年度は「中堅職員の支援スキル向上及び、チーム支援」、令和元年度は「支援に継ぎ目を生じさせない意識を持つ」、令和2年度は「コロナ感染防止対策で開催見送り。令和3年度は、「幅広い分野の視点を学び、チームとしての実践力を高める」、今年度は「障がい当事者が置かれている社会生活環境を振り返る」を年間テーマとしました。

講義1…意思決定支援と成年後見制度について

講義2…子どもアドボカシーと権利擁護

講義3…障がいのある人の権利を護るとは何か

講義4…権利擁護と意思決定支援

講義5…終末期における権利擁護の在り方について

(看取りについて)

講義6…権利擁護とICTの可能性

また、本研修内で、福岡県立八幡高等学校3年生による特別講演「SDGsと障がい福祉」を実施しました。SDGs 17の目標のうち「質の高い教育をみんなに」という目標に関心をもつなか、障がいのある児童生徒の教育環境や進路、社会での活躍など様々な状況をもとに、「私たちにできること」をテーマに研究された内容を発表して頂きました。研修参加者は初心に帰りながら次世代を担う高校生の視点を学ぶことが出来ました。

令和4年度 「個人情報保護」に関する

研修会(Web開催)

令和5年 2月10日(金)

本会相談支援部会主催で「個人情報保護に関する研修会」を本会権利擁護・研修部会オプザーバーでもある不二法律事務所弁護士市丸健太郎氏をお迎えし、開催しました。

個人情報保護に関する基本原則を学び事業所での実状と照らし合わせることで、個別支援計画の作成・福祉サービスの提供・地域住民からの相談など多くの個人情報を取り扱いながら業務に携わる者として、適正な管理に繋げる意識を高めることができました。



親善球技大会



第7回ティーボール大会 & 第7回グラウンドゴルフ大会

開催日：令和4年5月25日（水）

令和元年度に開催して以来、**3年ぶり**の大会です！ティーボール大会は3チーム 68名、グラウンドゴルフ大会は9チーム 74名が参加しました。

快晴の中、久しぶりの大会に、選手・実行委員の皆様は楽しみながら試合に臨んでいました。また、今年も開催できますように…

開会式



木高会長挨拶



障がい福祉課 宮崎課長挨拶



共催：西日本新聞民生事業団
佐藤局長挨拶



選手宣誓



第7回 ティーボール大会 試合結果

月の輪学園	27	-	なのみ工芸	17
なのみ工芸	31	-	赤坂園	23
月の輪学園	33	-	赤坂園	18

優勝 月の輪学園

準優勝 なのみ工芸

3位 赤坂園



第7回 グラウンドゴルフ大会

試合結果

チーム名	1R	2R	合計	順位
笠置寮A	97	94	191	1
笠置寮C	97	101	198	2
笠置寮B	94	106	200	3
蓮の実団地	136	120	256	4
あきさと園	145	115	260	5
さくら学園	142	124	266	6
+y o u	125	145	270	7
第2さくら学園	164	132	296	8
赤坂園	159	178	337	9



障害者週間啓発ポスター作成

12月3日から9日までの「障害者週間」を啓発するため、協会オリジナルポスターを作成いたしました。

今年度は初の取組として、会員施設の皆様にデザインを募集したところ、16施設から82作品の応募がありました。どれも素敵な作品でしたので、全てのデザインをポスターに活用いたしました。また、その中で、小学生の妹さんと一緒に作成された赤坂園 支援員の平 優香さんのデザインが『個人賞』を受賞し、こがね園の施設の皆様が手形でデザインされたヒマワリの作品が『施設賞』として受賞しました。

個人賞 赤坂園 支援員 平 優香様



受賞者 平 優香様



応募された
赤坂園の利用者様

製作にかかるエピソード

小学生の妹と一緒に作製しました。私は、支援員として障害者の方と接する事が多いので、妹から見た障害者の方のイメージと感覚が違うなと感じました。

色々な障害のある方を支援員として支える仕事をしている私と、皆が協力して支え合えたらいいと考える妹の考えからハートの中に「支え」と書きました。

受賞コメント

今回、作品を応募するにあたって、何気なく小学生の妹に「障害者の方ってどういうイメージ？」と尋ねました。「車椅子とか？」と言われ、自分の思う障害のある方について説明すると「障害がある人もそうでない人も支え合っていけばいいね」と答えてくれました。私は支援員として働いているので「支援員」と「支える」は同じ意味があると思いハートの中に「支え」という文字を入れました。

大人になり、絵を描く機会も減っている中で、このような賞を頂けた事はとても嬉しく思うと同時に、この仕事に出会えた事に感謝しています。

施設賞 こがね園



製作にかかるエピソード

「自分の手を使った作品を作りたい」。そんな声を聞き、皆さんご自身の好きな色を手塗りに塗り広げ「手形」を取りました。そのひとつひとつをデータ化し、色とりどりのカタチを目にすると「紅葉に見えるね」「こっちは太陽みたい」と湧き上がる創作意欲。「ひまわりを作りたい」とパソコンのマウスを握り、試行錯誤して取り組まれました。

お一人お一人、手の大きさも形も、色も、好きな物も、すべてが違う、自分らしさ。その中で「それぞれのカタチが、一つのキャンパスのなかで互いに重なり、一つの作品になったこと」。多様性の中で、大事にしたい、そんな心を教えてくれた気がする作品づくり・温かい作品となりました。

受賞コメント

受賞のご連絡を頂き、利用者の方へとお伝えをする目と輝かせながら「すごい、僕たちの作品が？嬉しい。」と口々に喜ばれ、また記念品を頂いた際には、大事そうに胸にあて握りしめられておりました。

今後も、一人一人の個性を大切に、共に支えあいながら。また、良いものを重ね合わせながら職員も利用者も明るく楽しく、他者へと輝きをプレゼントできるように精進してまいります。

今回の作品「ひまわり」のように。

この度は施設賞を頂き誠にありがとうございました。



その他の作品は、もう一つのポスターに活用しました。

全てのデザイン・エピソードは協会ホームページ (<https://fukuoka-chiteki.jp/>)に掲載しておりますので、ぜひ、素敵な作品をご覧ください。

障がい者福祉事業所における 新型コロナウイルス感染症に関するアンケート結果

平成4年10月に本会が行った新型コロナウイルス感染症アンケート調査に新型コロナウイルス感染症が発生した事業所71事業所から回答をいただきました。今後の感染症対策の一助になればと、第3波から第7波の期間におけるアンケート結果を項目別に簡潔にまとめさせていただきました。

BCPの活用について

BCPは作成していたが、想像以上の感染力であり、感染のスピードが速く、感染発生のパターンが多かったため、対応が刻一刻と変化するなかで判断を迫られる場において、その時の状況により支援方針を決定しなければならず、職員に時々の状況把握と迅速な支援方針を情報共有することが難しかった。支援においては、障がい者施設では、利用者さんに節度ある行動をお願いしても、できない方もおられ、問題行動もある方も居て、マニュアル通りにはいかない。等のご意見あるなかで、今回のクラスターの対応を経た上での今後を考えると、感染予防の備蓄品等は事前に準備が可能なので、特に問題はないと感じるが、職員が感染してしまうとマンパワー不足に陥り、利用者の医療的支援や基本的な生活支援もままならない状況に陥るので、感染者に直接支援をする際の感染予防の在り方等、再度、BCPの見直し改善を行い事前学習することが必要である。との意見があがっている。

ゾーニングについて

建物の構造上、完全に隔離する場所の確保が困難であり日々感染者が増えていくなかで、ゾーニングの変更を重ねる必要があり、場所の確保が大変だった。しかし、発熱したのと同時にゾーニングを即座に行うことで、3回目、4回目は最小限の感染に押さえることができた。等のご意見から、構造上によりゾーニングを行うことが困難であったり、感染状況によりゾーニングの見直しの困難さがあること。また、初期の発熱の段階でゾーニングが上手くできれば、感染拡大の防止につながると思うことがうかがえた。

感染の状況について

それぞれの事業所で入所・通所・児童等で状況が違っているが、感染源の特定において、通所系では家族からの感染、入所系では特定できないケースが一定数見られた。

通所系においては、比較的感染の拡大が小規模に済んでいるところが見られた。入所・GH系においては、感染の拡大が大きく、長期に渡ることが見られた。

また、拡大が小さかった事業所は、発熱者・感染者の隔離スペースの確保が迅速に行われたことがあげられる。

その他、第3波の時期に重症化するケースもあったが、その後の第4波からは重症化はほぼ無かったことが分かった。

備品・消耗品等の確保について

感染対策の備品・消耗品においては、準備はしていたが、想定外の感染の速さ、拡大の大きさにより、不足している事業所が一定数見られた。また、準備していた備品・消耗品は必要ななかったり、準備していなかった備品・消耗品が必要だったりしたこと。抗原検査キットの準備が十分でなかった。等のご意見も見られるなかで、感染対策用の消耗品が不足しそうな時に直ぐに頼める、もしくは事業所間での連携の強化（クラスター発生時の備蓄等の提供など）により借りれるところがあると助かる。また、補助金制度が先発して発信されるとより良い環境を整備するための備品を揃えやすい。等のご要望もあがっている。

病院・保健所・行政との 連絡等について

医療機関ひっ迫の関係で、発熱症状を伝えると予約が詰まっている等の理由で受診を断られる事があった。重症者がいるにも関わらず、入院できなかった事。一部の医療機関では、受診の連絡を事前に行くと、保健所を通して受診して欲しいとの指示があったが、保健所の電話回線はパンク状態にありほぼ繋がらなかった。施設入所者の多くは基礎疾患があり、施設内クラスターになるので、特に入所施設については、専用ダイヤルの必要性を強く感じた。各保健所で待機期間などばらつきがある。通所施設で感染が起きた場合の関係機関への連絡体制に難しさを感じました。陽性者が発生した時に、利用者様の障がいを理由に病院入院が進まなかった。そのため、法人内で療養隔離できる施設建物の確保が大きな課題であった。等の意見があげられた。

その他

現在建設中の避難施設兼重度高齢棟を隔離場所として活用していく予定。保健所等の機関の方より、定期的に正しい感染対策など指導していただける機会が欲しい。在宅の利用者で、利用者本人も家族も罹患し、家族は入院したが利用者本人は入院せずに自宅療養となった場合、利用者本人を誰が看るのか？通所施設では、深刻な問題だと思うが、この件について明示されていないと思う。等の意見が出された。

職員体制及び利用者支援

職員体制では、職員が濃厚接触や感染の為、自宅待機になった時の現場の人材確保が難しかった。職員間で情報共有ができないまま、コロナ対応の体制が変わったので現場が混乱した。職員で感染した人のうちで後半症状が安定している人には協力を仰ぎ、感染者対応で出勤してもらった。等の福祉現場のひっ迫がうかがえる意見があげられた。それらを受けた改善点として、感染拡大防止について職員の自己管理の重要性の再認識。他の法人・事業所との連携（職員の人員不足に陥った際に、お互いの職員の派遣等について協定を結ぶ）等の意見があがっている。

利用者支援では、職員も常時ゴーグルとマスクをしている事のストレスがかなりある。子どもの療育から言っても、職員の顔が見えない支援による弊害をかなり感じている。グループホームで生活される方々への外出の制限等に課題を感じ、厳しい制限を掛けると精神的なストレスが増していく状況であった。マスクをつけることが難しい利用者で多動な人をどのように配慮するか。在宅の利用者さんやそのご家族のなかには、自宅待機が必要な意味が分からない方もおられ、注意しても言うことを聞かず外出される方がいらっしゃるため困りました。等の意見があるなかで、改善事例として、コロナの感染力の強さに追いつかない感じでしたが、初動の対策が大切だと感じました。また、施設内で職員を固定させての支援等になるので、情報共有と職員間のコミュニケーションは大切なことでした。と意見があがっている。

おわりに

今回、アンケートの回答は、皆さまのご理解とご協力により、それぞれ事業種別の違い、規模の違い、法人の事業規模、感染状況の違いも含め多岐にわたる事業所から貴重な回答を得ることができましたことに、心よりお礼申し上げます。アンケートをまとめるにあたり、紙面の都合上、簡潔なまとめになりましたことご理解くださいますようお願い申し上げます。このアンケート調査の詳しい結果は、HPに掲載しておりますので、ご確認ください。

社会福祉法人愛光会

就労継続支援B型 セルフ清浄「菓子工房さくら」

〒820-0207 嘉麻市口春682-10
 TEL 0948-43-0239 FAX 0948-43-0239
 HP <https://aikoukai-seijyo.com>

嘉麻市にあります就労継続支援B型のセルフ清浄は、今年で創立16年目を迎えます。「福祉の向上をはかり社会の要請に応える」という法人の運営理念のもと、ご利用者様に寄り添ったサービスを提供できるよう日々支援に努めています。なかでも「菓子工房さくら」では、現在15名の障がいのある方が自立を目指し、「楽しく、元気に、生き生きと」をモットーに、チーズケーキをはじめパンや焼き菓子を、ご利用者様自らが真心を込めて焼き上げ、販売を行っています。地域社会の皆様への直接販売を通じ、お客様の喜んでいただける姿を見て体験することで、働く喜びを感じ、生きがいを感じていただいているようです。今後ご利用者様と地域の皆様が「菓子工房さくら」を通じて交流を深め、共に喜びあえるよう支援員一同、より良い支援を行ってまいります。

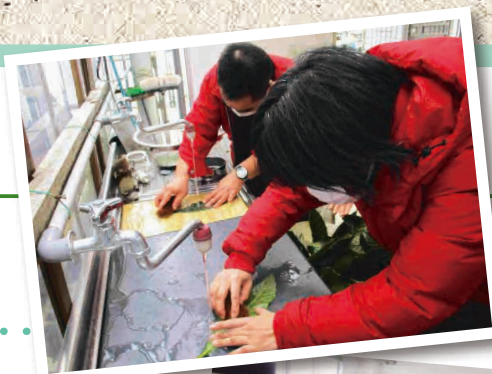


社会福祉法人本郷福祉会

山門清光園

〒835-0021 みやま市瀬高町本郷1352番地1
 TEL 0944-63-2800 FAX 0944-63-2801
 HP <https://hongo-fukushikai.com/yamatoseikoen>

みやま市にある山門清光園は、「ワーク（仕事・働く）・ライフ（生活・人生）・エンジョイ（楽しみ・喜び）」をコンセプトに、3つのワードを自由に組み合わせ、「仕事を通して働く喜びと楽しい生活、一度きりの楽しい人生を創造していく」ことをご利用者・ご家族・職員と共有しています。平均工賃は現在21,000円で、来年は25,000円を目指します。企業への施設外就労と施設内作業の豊富な作業の中から、それぞれ個人の強みを活かし、苦手なこと新しいことに何度も挑戦できます。仕事を頑張るためには余暇・休息も一生懸命楽しむことを大切に、一度きりの人生でたくさんの楽しみを経験するために、各月楽しい行事や毎週末に美味しい食の楽しみを提供しています。



事業所取組紹介



nakama

～あんなことこんなこと～

社会福祉法人みちくさ 多機能型施設あごら

〒828-0003 豊前市大字八屋1800-8
TEL 0979-64-8028 FAX 0979-64-8028
HP <https://www.michikusa-agora.or.jp/>



豊前市にあります「多機能型施設あごら」は、生活介護・就労継続支援B型・グループホームの事業を行っております。平成19年までは生活介護、就労B型と共に作業をしていましたが、「作業場があり、作った商品を並べて販売する場が欲しい」との希望で平成20年1月に住宅街の一角に就労B型の「あごらのお店」がオープンしました。

就労B型の仕事内容は、主に手作り布巾作り。サラシ布、タオル地布に利用者様が絵を描き、刺し子糸でひと針、ひと針心を込めて縫っています。他にも利用者様が描いた絵の作品を封筒やカレンダーにして商品として販売しております。

また、地域企業様より請負作業として「つくねの串刺し」「ケーキ店からのケーキ箱作り、シール貼り作業」「キャンペーン用品の鉄板の梱包作業」「自然食品の配達」「牛乳パック回収、整理」「施設周辺の清掃作業」を行っております。

「あごらのお店」は生活介護・就労B型の利用者様のかわいい商品でいっぱいです。是非一度いらっしやいませんか。

社会福祉法人和奏会

宗像学園/宗像ホーム/パン工房ハイジ 宗像多機能型事業所/キッチン工房ハイジ

〒811-4153 宗像市吉留字惣原515番地1
TEL 0940-39-2010 FAX 0940-39-2012

〒811-4153 宗像市吉留字惣原515番地2
TEL 0940-62-5006 FAX 0940-62-5007

HP <https://wakanakai.jp/m-home.html>

私たち、社会福祉法人和奏会「宗像学園」は、宗像市で生活介護、就労継続支援B型、共同生活援助の事業を同一敷地内で行っています。

就労継続支援B型では、パン製造・弁当製造・レストランでの食事提供のほか、イベント等でのパンや弁当の販売も行っています。

平成22年(2010年)の開設当初より「パン工房ハイジ」、令和元年(2019年)からは「キッチン工房ハイジ」として地域の皆様に支えられて毎日作業に取り組み、利用者様各々のペースを大切に、明るく楽しい事業所を目指しています。



新規会員加入施設紹介

(令和4年4月～令和5年2月に入会した施設)

社会福祉法人 高田福祉会 第2 萌友園

〒839-0225 みやま市高田町濃施南179-2
 TEL 0944-85-8366 FAX 0944-85-8367
 HP : <https://www.houyuen.com/>



第2 萌友園は、令和4年4月1日にオープンした生活介護事業所です。当事業所は住宅街にあり、近所には小学校や他の施設もあることから、コロナ禍ではありますが可能な限り地域の方々と交流の機会をもち、地域との繋がりを大切にして行きたいと考えています。

また、利用者様におかれましても地域社会の一員として、一日一日を充実した生活を送っていただくために、プラスチック解体作業、銅線の仕分け作業などの軽作業を中心にサービスを提供しています。そして社会の「ありがとう」の気持ちを工賃として受け取っていただき、地域社会においてのご自身の存在価値を感じていただくように支援してまいります。

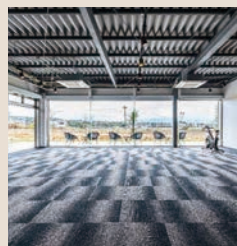
開 設 / 令和4年4月1日

利用定員 / 20名



社会福祉法人 嘉穂の里 HilltopGarden 庚

〒820-0607 嘉穂郡桂川町土師1091-48
 TEL 0948-43-2777 FAX 0948-43-2778
 HP : <https://kahonosato.jp/>



コンセプト

理解から基本の確立そして幅広い活動を生きる力を様々な角度から養う

HilltopGarden 庚は、生活介護と就労移行支援を目的とした多機能型事業所での自立の促進、生活の改善、身体機能の維持・向上を図り、能力や希望を重視した支援で「幸せ」へのチャレンジを応援します。就職を目指す方の気持ちに寄り添いながら、個別の支援計画に沿って、ひとつひとつ課題をクリアし、スキル向上や必要な知識を身に付けるサポートを行っています。

開 設 / 令和4年12月1日

利用定員 / 生活介護事業20名・就労移行支援10名

